

社医研の思い出

仁 平 将

ずいぶん昔のことで、正確な年はすぐには思い出せないが、・・・・・・・・。

その後の「地域保健法」による全国的な保健所潰しの先例となるような組織「改革」が青森県の保健所で行われようとしていた。秘密裏に行われていた準備作業を察知した保健所長達は会議の席上で主管課長に説明を求めた。渋々説明された「改革（案）」は保健婦集団を分断し、全体としては組織縮小・サービス低下につながる内容であった。

しかし、その案に対しての保健所長達の意見聴取や討論は行われず、後日個々に意見を聞くとの説明に終わった（会議終了時刻を大幅に超過していた）。

結果的には組織の一部手直しで終わったこの「改革」の中身と考え方を社医研で報告した。この時の質疑・討論で真っ先に発言したのは丸山 博 先生であった。「その時、渦中にいた君はどのような行動をとったのか？」と。

予期せぬ質問ではあったが、私は丁寧に答えたつもりである。決定には残された日数が少ない中、意見聴取に来た主管課長に問題点を列挙して、「改革（案）」に対する反対意見を述べたこと。同時に、その要点を私の意見として他の保健所長達にファックスした（当時はメールがなかった）こと。全保健所長が反対意見を述べたため、この「改革（案）」は基本的には葬られたこと等々。

この報告と討論が、私自身の基本的な考え方や行動を振り返るきっかけとなった。

丸山 博 先生に感謝すると同時に、社医研はすばらしいと感じた。